

『医学者の根幹』 ～ 『病氣(遺伝病)も 単なる個性である社会構築』 ～

2026年2月14日、『日本 Medical Village 学会』理事長として、横浜開港記念館での【『横浜がん哲学外来18周年&第8回『日本 Medical Village 学会』～いい覚悟で生きる～』（大会長 内田由美子 訪問看護ステーション代表）で、基調講演『言葉の処方箋』&『樋野先生へ がん哲学外来の発祥・開港についてのインタビュー』の機会が与えられた。2月15日は、『日本地域医療連携システム学会』理事長として 京都府宇治市の宇治市産業会館での【第9回『日本地域医療連携システム学会』&市民公開講座（大会長 京都府立医科大学教授 武藤倫弘先生）特別講演『心を支えるがん哲学』】の機会が与えられた。2月16日 午前中 帰京した。

2月16日7:00pm～ 『JSHT Lynch 症候群委員会のアドバイザー』として、Zoom ミーティング『2025年度第2回 Lynch 症候群委員会』に参加した。思えば筆者は、『リンチ症候群研究会』設立の時、リンチ症候群研究会会長として、【近年、遺伝性腫瘍に関する注目度が高まり、一般市民にも知られるようになってきており、様々な分野の医療従事者も、その対応を求められつつある。—— リンチ症候群は、『ミスマッチ修復遺伝子の生殖細胞系列変異を原因とする常染色体優性遺伝性疾患である』と定義され、—— 遺伝に関する指針 や ガイドラインに沿った検査の実施が必要であると考えられる。—— 各科臨床医・臨床遺伝専門医・病理医が連携を取り、院内体制の構築を検討する必要がある。—— 『リンチ症候群研究会』では、リンチ症候群の概要 と その診療に関連する情報を提供したい】と述べた。

筆者は、アメリカ留学時代の恩師『遺伝性がんの父：Knudson(写真)』（1922-2016）から下記の『5箇条』を学んだ。

- 1) 『複雑な問題を 焦点を絞り 単純化する』
- 2) 『自らの強みを基盤にする』
- 3) 『無くてならないものは多くない』
- 4) 『無くてよいものに縛られるな』
- 5) 『Red herring(相手にその気にさせて間違った方向に行かせる)に気をつけよ』

科学的精神、真理探求の精神は『医学者の根幹』である。筆者は、2016年 ボストン大学で『Knudson 博士追悼記念の講演』の機会が与えられた(画像)。【『病氣(遺伝病)も 単なる個性である社会構築が 人類の進む方向』】と実感する日々である。

